

いもう 葦毛通信



スイラン(瘦果)

2026年 1月 7日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町三丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 180

1. 2025年のミコシギクの保全活動

豊橋市指定天然記念物三太郎池湿地に自生するミコシギクの2025年の保全活動として、日照を確保し発芽を促すための除草、花の人工授粉等を行ってきました。また、昨年に採取した種子を使ったミコシギクの発芽実験については葦毛通信No. 176で報告しました。

1) 自生環境の保全

植物の保全はできる限り自然のサイクルのまま維持できるのが理想ですが、ミコシギクには様々な問題があります。開花数が1輪になった2018年以後、植生回復作業を進め個体数や開花数は増加してきました。以下では時系列に沿って2025年に行ってきた活動について説明します。

【日照確保】

発芽時の日照を確保するため、1月30日にD地点の防鹿ネット内で地表面の土が見える程度に除草して搬出しました。下左写真は作業前の状況でカサスゲ等の枯草に覆われています。草刈り後は裸地状態になり、日照が確保されました。

下右の写真は作業後3か月後の状況で、カサスゲやツルヨシ等の背の高い植物に覆われている状態です。4月19日には一部のカサスゲが開花しているのを確認しました。ミコシギクは2×1mほどの狭い範囲に集中しており、昨年の自生地点よりやや南側に移動しているようでした。このままではミコシギクの成長が阻害されてしまうので、5月1日にミコシギクだけを残してカサスゲやツルヨシ等の周囲の草を除草しました。

次頁上左の写真は除草作業の最終段階で、ミコシギク周辺の草を刈っているところです。中央の踏板の左側2×1mほどがミコシギクの自生範囲です。次頁上右の写真はミコシギクを拡大した写真で、ミコシギクは大きなもので高さが30cmほどになっていました。確認できたミコシギクは茎数が148本で、過去最高数になりました。



D地点作業前 (2025年1月30日)



D地点作業3か月後 (2025年4月22日)



D地点除草作業後（2025年5月1日）



ミコシギク近景（2025年5月1日）



D地点除草作業2か月後（2025年7月3日）



D地点除草作業4か月後（2025年8月24日）

上写真左は作業2か月後の状況で、カサスゲが大きくなりミコシギクの高さを追い越そうとしている状態です。右側は作業4か月後の状況で、カサスゲがさらに成長してミコシギクより大きくなり、ツルヨシはカサスゲよりも大きくなっている状態です。ミコシギクの自生部分では、何とかミコシギクが確認できますが、成長の遅い小さな個体は確認できませんでした。

2)ミコシギクの人工授粉

2024年のミコシギクの開花期間は10月24日から11月19日までの27日間、2025年のミコシギクの開花期間は10月23日から12月4日までの43日間でした。開花の終了は花弁が落ちて花粉がなくなった時期にしています。開花数は2024年が67輪、2025年が169輪で2.5倍ほどになっているので、2025年に開花期間が伸びたのは、開花数の増加が影響していると思われます。

ミコシギクは2023年1月2日に現地で種子を採取して冷蔵庫で保管して3月22日にパレットに1粒ずつ蒔いて発芽実験を行いました。この時の種子の状態は95%以上がシイナ（秕：充実していない種子）で、シイナではない種子も沢庵のよう萎びたような状態でした。発芽率も10%以下で成長も遅く10cm程度ですべて枯れてしまい、開花する個体はありませんでした。そこで、2024年から人工授粉を行っています。2024年は10月28日から11月19日までに13回、2025年は11月2日から11月26日までに14回行っています。人工授粉によって充実した種子が多くできるようになることが確認できました。

下写真は 2025 年の三太郎池湿地の開花状況です。上段左写真は全体の開花状況、上段右は拡大したところ、中段左は開花状況の近景、中段右は開花がほぼ終了した段階、下段



D 地点開花状況（2025 年 10 月 29 日）



ミコシギク開花状況（2025 年 11 月 2 日）



ミコシギク近景（2025 年 11 月 2 日）



ミコシギク近景（2025 年 11 月 22 日）



ミコシギク結実状況（2025 年 12 月 4 日）



結実状況（2025 年 12 月 10 日）

は結実状況です。結実状況は良好で、全体が半球状に盛り上がり充実した種子が多く含まれていると思われます。これから種子を採取して、除草作業を行って日照を確保した上で3月中旬頃に現地に種子を蒔き戻す実験を行う予定です。

3)ミコシギクの成長過程

(3段階での成長)

2025年に行った発芽・生育実験で最も大きくなつた個体は高さが94cmで、9輪の花が開花しました。

この個体は他の個体よりも明らかに早く成長しましたが、その成長スピードは一定ではなく、3段階あることがわかりました。

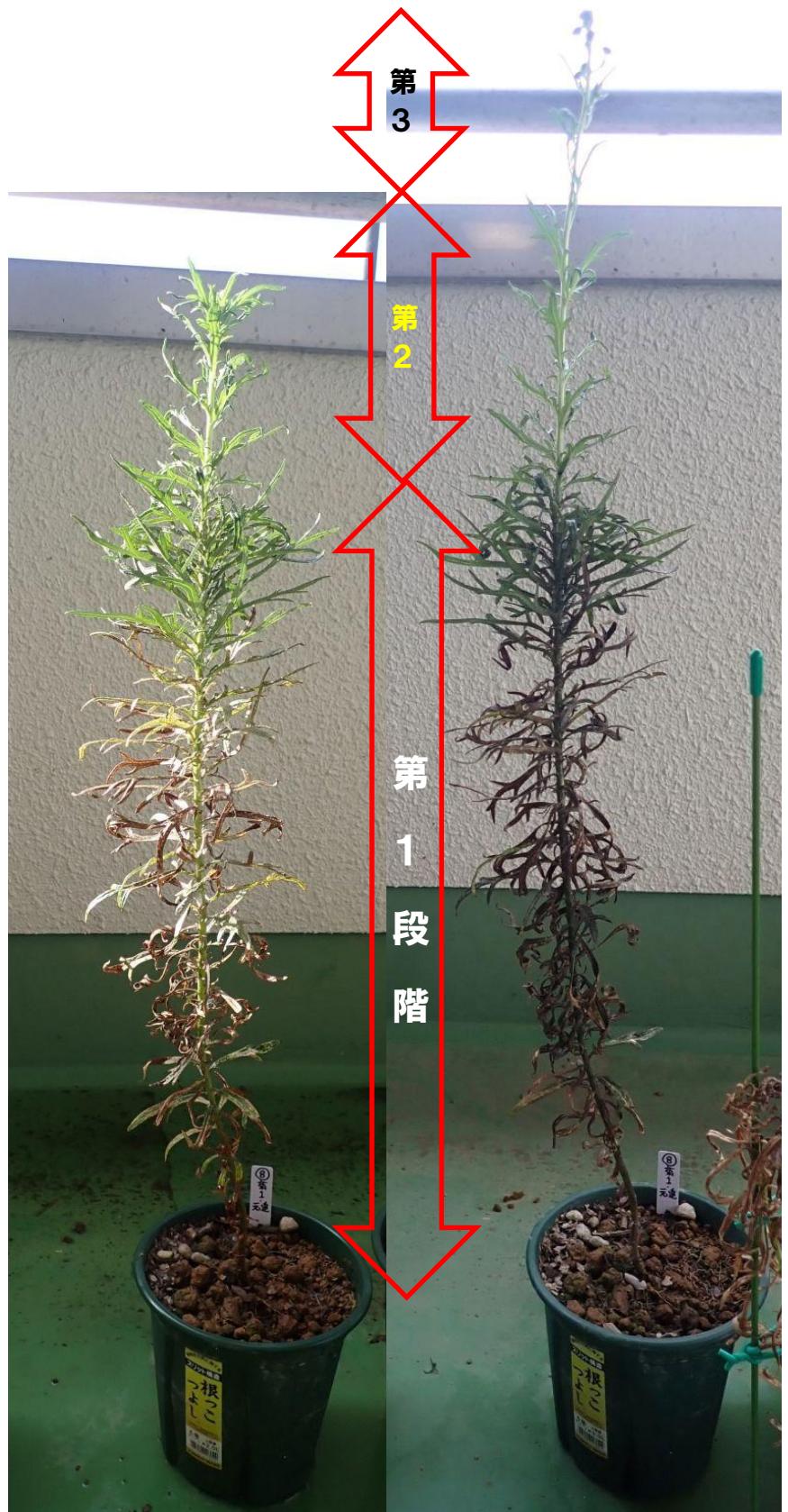
第1段階は発芽から80cmほどの高さまで一定のスピードで成長し、その後、一旦成長が止まりました。

第2段階は再び成長が始まりましたが、第1段階よりも明らかに葉が短くまばらな状態でした。

第3段階はツボミが出て開花準備に入り成長は止まりました。



第3段階（ツボミ）
(10月15日)



第1・2段階
(10月5日)

第3段階
(10月15日)